

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業研究のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会で積極的に発表ができる。				プレゼンテーション 勉強会での発表	5% 5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、その他10%で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・博物館の日程・調査方法などを検討する。 ・現地調査を1日以上実施する。 ・研究発表会を行う。 ・研究成果レポートの作成と提出。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※現地調査の旅費は実費とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：見学館の予備調査
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	博物館見学会	博物館の見学を実施する。	予習：見学館の準備 復習：見学の反省
4	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の指導	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の指導	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の指導	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の指導	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の指導	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の添削指導	添削された卒業研究を修正する。	予習：卒業研究の修正 復習：卒業研究の修正
15	前期課題の受理	後期のまとめとして、修正した卒業研究を提出する。	予習：卒業研究提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 後期の前半では、三川内焼と有田焼の特徴の比較を通じ、三川内焼の特徴を、前期よりも幅広くまた深く説明できるようにする。説明は、2つの言語で行うことをめざす。 後期の後半では、卒論テーマの準備と就活準備を行う。							④⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解したうえで、その特徴を説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、 分析力	卒論テーマと就活準備に関する調査を行い、その結果をまとめることができる。				期末レポート	25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。 ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会演 習参加状況	35% 10%	
協働・課題解決 力	学術発表、卒論テーマの準備と就活準備の各活動で、ゼミのメンバーの取り組みに注目したり、課題解決に共同して取り組むことができる。				演習への 参加状況	10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への 参加状況	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 演習への参加状況は、傾聴、課題への積極的な取り組み、自他の文化の尊重（多様性理解）の程度を総合的に判断する。ゼミ内発表会は、発表の実施と傾聴の程度を評価する。期末レポートは、調査と考察の程度によって評価する。 2. フィードバックは次の時点で行う。演習参加状況：授業中、ゼミ内発表会：発表会終了後、期末レポート：提出締切後（個別に）。							
授 業 の 概 要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	3年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習) 前期のレポート(紙媒体とデータ)を持参する。 (復習) 制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習) グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習) 自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) 発表後の感想を、マナバに記入する。
7	卒論準備、就活準備 (その1)	①卒論テーマを検討する(その1) テーマの候補を出す ②就活準備 希望する業種・職場(その1)	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
8	卒論準備、就活準備 (その2)	①卒論テーマを検討する(その2) テーマ候補について調べることを挙げる ②就活準備 希望する業種・職場(その2)	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
9	卒論準備、就活準備 (その3)	①卒論テーマを検討する(その3) 前回挙げたことごとについて調べる ②就活準備 希望する業種・職場の業務	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
10	卒論準備、就活準備 (その4)	①先行研究を調べる(その1) ②就活準備 希望する業種・職場で発揮する自分の能力(その1)	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
11	卒論準備、就活準備 (その5)	①先行研究を調べる(その2) ②就活準備 希望する業種・職場で発揮する自分の能力(その2)	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
12	卒論準備、就活準備 (その6)	①先行研究を調べる(その3) ②就活準備 履歴書作成の練習	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
13	卒論準備(その7)	卒論テーマ案報告の準備と練習	(予習) 指示された課題を作成しておく。(復習) 授業での学修を踏まえ課題に加筆し、マナバに提出する。
14	ゼミ内発表会	卒論テーマを報告する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) プレゼンの評価
15	卒論発表会出席全体のまとめ	①4年生の卒論発表会に出席する。②この科目で学習した内容のふりかえり。③所期の目標に到達したかの確認。	(予習) 目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							①⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	35%	
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	40%	
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	10%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『続 日本人の英語』 マーク・ピーターセン (著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	古民家	古民家に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	いろり	いろりに関する表現、翻訳研究、TOEIC問題、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	民芸品 1	民芸品に関する表現 1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、PCの活用など（レベル 2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	民芸品 2	民芸品に関する表現 2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	お城	お城に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	武具	武具に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	観光地	観光地に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	道祖神	道祖神に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル 2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	稲作 1	稲作に関する表現 1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	稲作 2	稲作に関する表現 2、TOEIC問題テスト実施、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 111-120について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、小テスト	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	中山 忠彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅡA・ⅡBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツパフォーマンス測定の手法の習得」を3大目標として、演習を展開します。ⅡBではⅡAに引き続き、各種ワーク（輪読）を通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます（コミュニケーション力）。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能・プレゼンテーション資料作成を習得します（メディアリテラシー）。卒業論文作成に向け、題材の選定とテーマに応じた調査方法やスポーツパフォーマンスの測定評価法を修得します。</p>							①②⑤⑦⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学の理論を説明することができる。 ・スポーツパフォーマンス測定を適切に実施できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・作業課題 	30%	10%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。 ・自身の興味がある研究分野を選定し、関連する文献を収集できる。 ・測定データを適切に収集し管理できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・作業課題 ・研究レポート 	10%	20%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ワークへの取り組み態度とワークによる成果 	10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ワークへの取り組み態度とワークによる成果 	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>・ワークへの取り組みと成果を評価する（評価比率：20%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。・メディアリテラシーおよびパフォーマンス測定の作業課題を評価する（評価比率：20%）。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。・プレゼンテーション（評価比率：30%）：プレゼンテーション資料について評価し、第9回授業時にフィードバックする。・受講態度（評価比率：10%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。・研究レポート（評価比率：20%）：授業での研究活動の内容を総合評価し、個別にフィードバックする。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツパフォーマンスデータを取得する際に研究活動に係る実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3</p> <p>参考書：「トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版」NPO 法人日本トレーニング指導者協会（編）（大修館書店）ISBN：978-4-469-26754-9</p> <p>参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤 進 他（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1108-1</p> <p>指定図書：「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法」西菌 秀嗣（大修館書店）ISBN：978-4-469-26543-9</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外における学習：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。

学生に期待すること：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・演習授業の進め方の確認 ・コミュニケーションワーク（情報交換） ・前学期の省察を行い、目標を設定 	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
2	トレーニングの常識を疑う	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（ワード活用） ・トレーニングについて疑問に思うこと（討論） 	予習：トレーニングの常識、非常識について思うことを整理する 復習：疑問から課題を設定する
3	文献検索（書籍）①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報共有） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・書籍の文献検索 	予習：興味のあるスポーツ関連図書を図書館より3冊以上借りる 復習：図書1冊の要約作成
4	文献検索（書籍）②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報共有） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・書籍の文献検索 	予習：興味のあるスポーツ関連図書の精読 復習：図書1冊の要約作成
5	文献検索（論文）①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報共有） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・学術論文の文献検索 	予習：興味のある学術論文を5編選定 復習：論文1編の要約作成
6	文献検索（論文）②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報共有） ・メディアリテラシー（アプリ活用） ・学術論文の文献検索 	予習：学術論文1編の精読 復習：学術論文1編の要約作成
7	プレゼンテーション準備	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（PPT資料作成） 	予習：作成した文献の要約を確認する 復習：プレゼンするためのPPT資料を完成させる
8	プレゼンテーション①（文献紹介：書籍）	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（PPT資料作成） 	予習：プレゼン内容を確認する 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
9	プレゼンテーション②（文献紹介：論文）	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（PPT資料作成） 	予習：プレゼン内容を確認する 復習：聴講者の質疑応答の内容をまとめる
10	パフォーマンス測定①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（協働） ・測定方法の手順と確認 ・メディアリテラシー（測定用紙作成） 	予習：測定方法を確認する 復習：測定記録用紙のフォーマットを完成させる
11	パフォーマンス測定②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（データ入力） ・収集した測定値の確認 	予習：選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習：入力データ不備の確認
12	卒業論文テーマ設定①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（文献検索） ・研究の構想 	予習：研究テーマ設定の構想 復習：実現可能な研究設定か確認する
13	卒業論文テーマ設定②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（文献検索） ・研究テーマと研究仮説設定 	予習：設定した研究テーマの仮説について検討する 復習：研究方法について検討する
14	研究計画書作成①	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成方法 	予習：研究計画書作成要領を確認 復習：レポート作成に取り組む
15	研究計画書作成②	<ul style="list-style-type: none"> ・研究レポートの作成（締め切り：最終授業の1週間後） 	予習：研究レポートの作成 復習：研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	落合 和昭		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
ホスピタリティは観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。③架空のプランや計画を想像することで、業務への理解を深めます。これらにより、将来のホテル事業を牽引する人材を育成することをねらいとします。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	ホテルにおける事業判断指針を理解し、客観的な評価や適した人材について想定し、発表することができる。				課題レポート		30%
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集し、マーケットからのホテル評価について、自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢		40%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の評価や希望を説明し、適した対応を行うことができる。またパワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション		20%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、感染症の影響など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢		5%
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行者など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。				プレゼンテーション		5%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 ② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ホテルを評価する時に必要な知識や業務を学ぶ。 顧客満足度（主に宿泊のお客様の満足度について）・従業員満足度（ホテルに勤務する従業員の満足度について） 事業スキム（ホテルの資産がどのように形成されているか） 事業評価（ホテル損益および関係する指標の理解と改善提案） ホテルが求める人材について、外部講師の意見も踏まえて考える。また模擬面接など今後に向けた準備を行う。 <p>また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な授業外学修時間は、1コマ45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：授業時に、指定する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。 ② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。 ③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習ⅡAを総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	顧客満足度①	顧客満足度の意識が高いホテルの事例研究を行い、社会で認められるホテルの特徴を考える。	(予習) 顧客満足の高い会社を1社選択して調べる
4	顧客満足度②	①についての研究発表を行い、グループ討議により満足度向上に関する提案を行う。	(予習) プレゼンテーションを作成する
5	従業員満足度①	社員の意識調査において、満足度(エンゲージメント)指数が高いホテルの事例研究を行い、“働きがい”について考察する。	(予習) 社員のエンゲージメントを調べる
6	従業員満足度②	①についての研究発表を行い、グループ討議により満足度向上に関する提案を行う。	(予習) プレゼンテーションを作成する
7	ホテル事業スキム①	ホテル事業における事業スキムに関して説明を受け、企業理解を深める。	(復習) ホテル会社を選び、企業情報を収集する。
8	ホテル事業スキム②	ホテルに関わる契約関係について理解し、企業研究の基礎とする。	(復習) 関係する契約を整理しておく。
9	ホテル事業評価①	ホテルにおける一般的な評価対象者や評価方法の概要について説明を受ける。	(予習) 評価の基準に関して考えておく。
10	ホテル事業評価②	ホテルの事業損益に関する説明を受け、事業改善に向けた提案を行う。(1回目)	(予習) ホテル収支の改善提案を考えておく。
11	ホテル事業評価③	ホテルの事業損益に関する説明を受け、事業改善に向けた提案を行う。(2回目)	(予習) ホテル収支の改善提案を考えておく。
12	ホテルの求める人材①	現職のホテル総支配人をゲストスピーカー(実務家)として招き、会社が求める人物像を明らかにする。	(復習) 会社が求める人物像をまとめる
13	ホテルの求める人材②	就職活動で訪問を予定する複数のホテルをリストアップし企業研究を行う。また自身のキャリアプランと企業の採用方針を確認した上で、志望動機をまとめる。	(復習) 志望動機をまとめる
14	模擬面接	①②で研究した企業に応じた模擬面接を実施する。	(予習) 面接の準備をおこなう
15	専門演習ⅡBのまとめ	学んだことをグループ毎にとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者が各自設定したテーマに関連するデータや新聞記事、報告書、資料を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら卒業研究の作成に向けた力の養成を図りたい。最終的には、受講者が自ら考察の視点を持ち、4年次の卒業研究に取組めるよう導きたい。							①⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマに関する基本的な事項を理解し、説明することができる。				発表と議論 レポート	10% 20%	
情報収集、分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集し、指定された形式でレポートを作成することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。				発表と議論 レポート	20% 40%	
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レポートを60%、発表と議論を40%の比率で評価する。レポートはレポート・ルーブリック等を用いて様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。また発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。演習内で学生が作成したレポート（作成途中のものも含む）については、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。							
授業の概要							
本授業では、受講者が各自テーマを設定し、テーマに関わる情報を収集し、課題レポートの作成、発表、議論を行う。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。参考書：井下千以子『思考を鍛える 大学の学び入門』慶応義塾大学出版会（2017） 指定図書：松本茂・河野哲也『読む・書く・プレゼン・ディベート』の方法』玉川大学出版部（2007） 白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房（2013）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。 また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程を履修している学生 ・日本の時事問題に関して理解を深めたい学生 ・子どもや教育の問題について関心のある学生 ・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたい学生 <p>※本演習の受講者には「教育学」（前期）の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
5	論評会③	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
6	問いを設定する①	本演習の課題レポートとして取り組むテーマを各自が大まかに設定し、テーマに関わる新聞記事について発表する。	予) レポートテーマの検討と新聞記事の収集 復) 議論の振り返り
7	問いを設定する②	レポートで調べていきたい具体的な問いを抽出する。	予) レポートの問いを考える 復) 作業の継続
8	レポート作成手法を修得する	レポートの構成、作成方法、調査手順を確認する。また情報収集（文献・インターネット等）の方法についても確認する。	予) レポートの作成方法を調べてくる 復) レポート作成方法の復習
9	基礎知識を修得する①	問いに関わる基本的事項を洗い出す。	予) レポート作成に必要な基本的事項を考える 復) 作業の継続と見直し
10	基礎知識を修得する②	問いに関わる基本的事項を調べ、整理する。	予) レポート作成に必要な基本的事項を調べる 復) 作業の継続と見直し
11	レポートを構成する	レポートの構成を考え、必要な資料やデータを考える。	予) レポートの構成を考える 復) 資料やデータの収集
12	情報を収集・分析・考察する①	問いに関わる資料やデータを収集・分析し、考察する。	予) 資料やデータの講読 復) 分析の継続
13	情報を収集・分析・考察する②	問いに関わる資料やデータを収集・分析し、考察する。	予) 資料やデータの講読 復) 分析の継続
14	レポートを作成する	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポート作成作業の継続
15	発表・議論する	レポートを発表し、発表内容について議論する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予) 発表準備 復) 今後の予定の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
長崎県佐世保市をテーマに放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を取材という形式で自ら調べて、放送で発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する前年度は映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営・地域イベントの実践などをおこなう。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる				課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	30%	
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる				企画・番組内容	40%	
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加することができる。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNSによる情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践的に学ぶ。企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。本講義では、様々な分野の専門も関与して、受講する学生のアイデアを産業界等で実用化することやベンチャー企業を設立するなど、産学協同により大学等における学びを社会実装することを志向した授業を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『話すチカラをつくる本（知的生きかた文庫）』三笠書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
3	施設拠点の活用	中心市街地のコミュニティを活用に関する計画を考える	予：コミュニティに集まる人々を分析する
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	イベントデザイン準備	イベント実施のための調査・取材実践。計画書の作成	予：イベントテーマの決定
6	情報発信	まちづくりに関する活動の発信を实践	予：コンテンツを選び、発信準備をする
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予：事例研究・分析
8	プレゼン作成とデータ管理	高度なツールを使った文書作成とグラフィックスの演習	予：アプリケーションの動作確認
9	プレゼンテーション	プレゼンテーションの实践と他者との評価	予：話し方・姿勢・内容を確認する
10	イベント制作・情報発信	イベント実施のための調査・取材実践。イベント企画書の作成	予：企画書の確認
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Webの操作・管理、コンテンツ作成	予：指定サイトの参照
12	イベント企画確認	イベント企画を再確認、グループ同士で評価する	予：プレゼンデータの確認とポートフォリオへの提出
13	イベント実践準備	イベント企画の準備とタイムスケジュールの事前シミュレーションを行う	予：開始・終了、人員配置などの確認をする。
14	事前イベント企画発表	グループでの具体的なイベントを企画し発表する	予：作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	イベント企画発表	具体的なイベントを企画し発表する (商品開発やまちづくりプランなど)	予：事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の学びのうち、「学び」に焦点をあて、多文化社会における多様な人との学びについて学び、実践することをめざす。マイプロジェクトの経験を通して、学び観を培う。							①④⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	多文化社会における多様な人との学び観を培うことができる				マイプロジェクトレポート	25 %	
情報収集、分析力	文献、資料を通して基礎知識を理解し、考察することができる				事前(課題)事後学習	35 %	
コミュニケーション力	マイプロジェクトを通して人と関わり、聞き取り、発信することができる				マイプロジェクト	20 %	
協働・課題解決力	マイプロジェクトを通して、協働で学ぶことができる				ディスカッション	10 %	
多様性理解力	クラス、グループの多様性を認め受容する力を養う姿勢を持つことができる。				相互評価 自己評価	10 %	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
事前・事後学習(課題)で35%、マイプロジェクトのプロセスと成果で55%、授業貢献(ディスカッション、自己相互評価)で10%として評価する。各課題のフィードバックは授業内で行う。							
授業の概要							
本演習では、まちや人に関わる中で、一人もしくは数人で「マイプロジェクト」をたて、調査、活動(企画)、経過発表までを行う。スケジュールは変更することがある。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：演習内で指定する。適宜ハンドアウトを配布する。 参考書：適宜演習内で指定する。 指定図書：細川英雄『対話をデザインする』ちくま書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点から「ことば」「社会」「学び」について考え、ことばをつくり、人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。実際にまちや色々な人と関わる経験をしたい人、主体的にプロジェクトができる学生に向けています。留学生が受講する場合は、自分のことばでまとめながらプロジェクト運営できること、文献を読み、レポート執筆できる日本語力が必要です。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：自己紹介、「日本語」のイメージを話せる ようにしてくる
2	省察・個人面談	前学期の学びを省察し、今学期の見通し、個人目標を たてる。	予習：個人ポートフォリオ の作成 復習：個人ポートフォリオ の見直し
3	文献購読①	マイプロジェクトに関する文献購読 外部講師講話	予習：ハンドアウトを 読んでくる 復習：内容の要約
4	文献購読②	プロジェクト、経験学習、クリエイティブ・ラーニン グに関する文献購読	予習：ハンドアウトを 読んでくる 復習：内容の要約
5	文献購読③	デザインに関する文献購読 外部講師講話	予習：ハンドアウトを 読んでくる 復習：内容の要約
6	マイプロジェクト準備①	プロジェクト立案	予習：ハンドアウトを 読んでくる 復習：プロジェクト案作成
7	マイプロジェクト準備②	マイプロジェクト フィールドワーク	予習：フィールドワーク 準備 復習：省察
8	個人指導	マイプロジェクトに関する個人指導	予習： フィールドワーク 省察をまとめる
9	マイプロジェクト準備③	プロジェクト見直し、フィールドワーク	予習：フィールドワーク 準備 復習：省察
10	マイプロジェクト中間報告	プロジェクト中間報告	予習：ハンドアウト作成 復習：FB ぶりかえり
11	マイプロジェクト 発表準備①	マイプロジェクトの発表の場のデザイン、資料準備	予習：指示する資料を 読む 復習：省察
12	マイプロジェクト 発表準備②	マイプロジェクトの発表の場のデザイン、資料準備	予習：発表準備 復習：省察
13	発表会	マイプロジェクトの経過発表	予習：発表準備 復習：省察
14	発表会	マイプロジェクトの経過発表	予習：発表準備 復習：省察
15	ぶりかえり	1年をぶりかえり、内省、協働省察する マイプロジェクト活動の今後の予定 卒業論文のテーマ、アウトラインを考える	インタビューレポート作成 個人ポートフォリオ記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。 1つの研究テーマを決定し、その研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものかを学び、卒業研究に臨む準備を整える。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。					ディスカッション	30%
情報収集、分析力	分野における先行研究を収集することができる。先行研究を解題することができる。					課題提出	40%
コミュニケーション力	議論に積極的に参加し、貢献できる。					ディスカッション	20%
協働・課題解決力	研究調査のテーマを設定でき、適切な研究手法を用いることができる。					プレゼンテーション	10%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題提出（40%）はワード文書とし、発表は、パワーポイント資料を用いて行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等も評価する。</p> <p>発表（10%）においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等も評価する。ディスカッション（50%）においては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等を評価する。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。</p>							
授業の概要							
<p>各自が研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書・参考書：特に指定しない。</p> <p>指定図書：A・ブル（1998）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
3	研究(1)研究テーマの設定	研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。先行研究を解題しまとめる。
4	研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	調査内容について案を作成する。
5	研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	調査計画を検討する。
7	研究(5)調査	フィールドワークを実施する。	調査計画を定める。
8	研究(6)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	研究(7) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	研究(8)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	研究(9)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	研究(10)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	研究(11)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	研究(12)研究発表	一連の研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	研究(13)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	竹田 文雄		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡAで実践した学修を継続します。力を置きたい課題は以下のとおり。 ①「知り得た知識を自分の意見として言葉や文章で発信する際の表現力の強化」 ②「主体性・ホスピタリティ」 OODA ループにあてはめて演習の進捗を確認する訓練も試みる予定。 具体的な学修プロセスは専門演習ⅡAを踏襲。 <u>実用イタリア語検定の3月受験を必須条件とします。</u>							①②⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力						%	
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等の活用ができる。(自分の考えを裏付ける情報の収集と、それら情報の取捨選択。)				・プレゼンテーション	20%	
コミュニケーション力	自らが率先してイタリア語を話してみるという確固たる意志を持ち、毎回の課題に積極的に参画できる。				・討議参画 ・プレゼンテーション	30% 30%	
協働・課題解決力	グループ討議の実践と、その場の取り纏めができる。(アウトプットの実行。)				・討議参画	20%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
何事にも積極性を求めます。特に「発音練習」、「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の3つの要素を主な評価軸とします(評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。							
授業の概要							
実用イタリア語検定4・5級の合格を目指します。イタリアを旅行する時に最低限知っておきたいイタリア語のフレーズや言い回しを、メンバー全員で「声に出して学ぶ」ことを基本とします。あいさつや自己紹介などの基本的フレーズからはじめて、2 往復以上の会話までを学びます。「イタリア語会話」へのチャレンジをすべてにおいての基本とするので、バンバン話してもらいます。授業スキームは「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」ものであり、「担当教員がメンバー学生に対して聴かせる」ものではありません。授業振り替えの可能性があり、効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分。							
教科書・参考書							
教科書：『実用イタリア語検定 2023/3・4・5 級 問題・解説 (リスニング CD+音源 DL 付)』 特定非営利活動法人国際市民交流のためのイタリア語検定協会 丸善出版株式会社 参考書：『本気で学ぶイタリア語』： 本多 孝昭 ベレ出版 指定図書：『30 日で話せるイタリア語会話』：アレッシオ・コッポラ ナツメ社。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席・遅刻の際は、必ず事前に連絡を入れること。 学生の皆さんの自発的な積極性に期待します。そして「第 2 外国語はイタリア語」と言ってみたい学生の参加に期待します。なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もありません」が口癖の学生、指名されても「無言」の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の演習は苦痛をともし時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていないと思われれます。							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入	演習 IAの結果を踏まえて、IBでの方向性や各自の問題意識の持ち方を確認。 演習全体の方向性の再確認。	予：シラバスの読込み。 3分決意表明の準備。 復：何を指すのか？をあらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味のあるための確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を5分間で発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	5級（2022年秋出題）	・2022年秋季出題の確認（1） Comprensione Auditiva	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
4	5級（2022年秋出題）	・2022年秋季出題の確認（2） Parte Scritta	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく見直し。
5	5級（2022年秋出題）	・2022年秋季出題の確認（3） Parte III	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
6	5級（2022年春出題）	・2022年春季出題の確認（1） Comprensione Auditiva	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
7	5級（2022年春出題）	・2022年春季出題の確認（2） Parte Scritta	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
8	5級（2022年春出題）	・2022年春季出題の確認（3） Parte III	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
9	4級（2022年秋出題）	・2022年秋季出題の確認（1） Comprensione Auditiva	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
10	4級（2022年秋出題）	・2022年秋季出題の確認（2） Parte Scritta	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
11	4級（2022年秋出題）	・2022年秋季出題の確認（3） Parte III	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
12	4級（2022年春出題）	・2022年春季出題の確認（1） Comprensione Auditiva	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
13	4級（2022年春出題）	・2022年春季出題の確認（2） Parte Scritta	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
14	4級（2022年春出題）	・2022年春季出題の確認（3） Parte III	予：テキストでの予習。 復：解答に基づく復習。
15	通期総括	通期を通しての総括	予：まとめの準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
地域課題の理解を踏まえ、既存の観光素材の組み合わせによる新しい価値づくりの方法を研究します。日本型 DMO における事例など地域観光発信における様々なモデルを研究し、対象地域にあった組織作りや手法を採択し、魅力の再定義による観光資源の発信、連動したプロモーションなど具体的な取り組みを行います。同時に関連法令やコンプライアンスの順守、関係者間の信頼醸成など、企画立案や運営実行を行う上でのさまざまな配慮・注意点についても理解を深めます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域課題解決への取り組みと参加者のメリットが明確に示された企画案が作成できる。				レポート作成	30%	
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				授業への積極的な姿勢	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。 				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(50%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(30%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価します。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
グループ(または個人)で選択したテーマに沿って、地域課題解決、観光振興に関わる事業計画を策定し、発表を行います。計画に際しては、より高い実現性とリアリティを最大限に追求するため、外部の団体・法人、旅行・観光業などとの連携を想定して、具体的な計画案を策定します。ゼミ内での発表にとどまらず、想定されるステークホルダー、関係者へのプレゼンテーションも行うため、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：『図解でわかるSDGs』平本督太郎(メイツ出版) 指定図書：『持続可能な地域の作り方』寛 裕介(英治出版)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。自身のポートフォリオにおける大きなフットプリントとなるよう、自分の能力を最大限に表現し、自身の成長につなげられるアウトプットになることを期待します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略および目標設定	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してこること
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる。
3	グループ編成と研究テーマの検討	事業化企画コンセプトについての概要(課題設定・狙い)を発表・共有する。	(予習) 事業家テーマの論点を明確にする。 (復習) 企画の方向性を絞り込む。
4	グループワーク(事業化)①	事業計画の素案作成・方向性の検討 グループ内の役割を決め、目標とスケジュールを設定する。	(予習) 企画概要を図式化する。
5	グループワーク(事業化)②	実地調査・情報収集	(予習) 調査報告と企画見直しについてレポート
6	グループワーク(事業化)③	企画案作成作業(調査による企画内容の修正確認)	(予習) 各パートの原稿を収集しておく。
7	グループワーク(事業化)④	事業計画プレゼンテーションと質疑	(予習) 発表準備 (復習) 質疑・コメントの計画反映
8	個人研究	個人研究課題①②についての説明	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる。
9	個人研究(1)①	研究課題の発表とディスカッション・質疑応答	(復習) 自身及びメンバーの発表の振り返り
10	個人研究(1)②	研究課題の発表とディスカッション・質疑応答	(復習) 自身及びメンバーの発表の振り返り
11	個人研究(2)①	研究課題の発表とディスカッション・質疑応答	(復習) 自身及びメンバーの発表の振り返り
12	個人研究(2)②	研究課題の発表とディスカッション・質疑応答	(復習) 自身及びメンバーの発表の振り返り
13	卒論準備(1)	卒論テーマの論点の設定、構成などについて	(予習) 研究課題を基にした自分の論文のテーマ案を考える。
14	卒論準備(2)	自身のテーマの選定についてのディスカッション	(予習) 自分の論文の構成を考えてみる。
15	まとめ	意見交換と演習全体のふりかえり。 卒論スケジュールの確認	(予習) 今後の自分の目標について考えておく。

授業科目(ナンバリング)		専門演習ⅡB (CF302)		担当教員		山内 美穂	
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習のねらいは二つあります。一つは自身が興味をもつテーマを深く理解し人に説明することを通して、わかりやすく伝える力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。もう一つは、また、いくつかの研究手法を学び、卒業研究をするための分析力や考える力を身に付けます。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	自身が興味をもつテーマについて深く理解し、わかりやすい資料をつくること 必要な調査と分析をし、わかりやすい資料をつくること					発表資料	30%
情報収集、分析力	自身が得た知識をわかりやすく伝えること テーマに沿って調査や分析をし、分かりやすく説明できる。					発表	50%
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。 グループメンバーと協力して発表資料を準備することができる。					ディスカッション 発表準備	10% 10%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分やグループが担当する箇所の発表で50%、発表資料で30%、発表後のディスカッションへの参加度で10%、ゼミ仲間との協働で10%を評価します。発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックします。							
授業の概要							
前半はグループ毎に前期に学修した地域のインバウンド対応やクラフトツーリズムについて学会または学園祭に向けて発表するための整理・分析・資料作りをします。後半は、いくつかの研究手法について学び、卒業研究のテーマのヒントになりそうなテーマについて分析したり考えたりします。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：Think the Earth 編著『未来を変える目標SDGs アイデアブック』紀伊国屋書店，2018 参考書：加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店，2019 指定図書：加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店，2019							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、自身が興味をもつテーマについてさまざまな資料から収集した情報をまとめて自分以外の人に分かりやすく伝える力をつけることに重きを置いています。それは4年生の卒業研究でも必要となるからです。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は資料や教科書の担当箇所をしっかりと理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の方もしっかりと該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。また、外部の方と接触する機会もありますので、積極的に関わってほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の授業の進め方、研究発表について説明、ディスカッション。	予習：シラバスを読んでおく。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き。 復習：本学期的目標設定の清書。
3	学会または学園祭での発表資料作成①	前期で学修した地域のインバウンド対応、クラフトツーリズムについての資料を整理する。	予習：前期で学修した内容を振り返る 復習：自分たちの発表内容を考える
4	学会または学園祭での発表資料作成②	前期で学修した地域のインバウンド対応、クラフトツーリズムについての調査結果分析	予習：前期で調べた内容をふり返る 復習：自分たちの発表資料を作成
5	学会または学園祭での発表資料作成③	前期で学修した地域のインバウンド対応、クラフトツーリズムについての発表資料を完成させる。	予習：調査分析内容を確認する 復習：自分たちの発表資料を完成させる
6	アンケートと研究倫理	アンケートと研究倫理について理解する。 テーマを決めてアンケートをつくりゼミ内で実施。	予習：「アンケート」についての配布プリントを読む。 復習：分析法について配布プリントで学ぶ。
7	アンケート結果の読み取り	前回のアンケート結果を分析し、発表する。 ゼミ仲間のアンケートについてピア評価。	予習：アンケートの分析。 復習：自身のアンケートについて振り返りシートで評価。
8	インタビューと分析①	インタビューの手法について学び、ゼミ内で簡単なインタビューを実施し、文字化する	予習：「インタビュー」についての配布プリントを読む。 復習：ゼミ内「インタビュー」の文字化。
9	インタビューと分析②	テキストマイニングの手法を学び、インタビュー文字化データの分析練習をする	予習：「テキストマイニング」についての配布プリントを読む。 復習：インタビュー結果の分析。
10	インタビューと分析③	インタビュー結果発表	予習：インタビュー結果発表準備。 復習：自身のインタビューについて振り返りシートで評価。
11	コーパスを使ってみよう	コーパスについて理解する。 コーパスでことばの分析を試みる。	予習：配布プリントを読み、「コーパス」について調べておく。 復習：コーパスの使用練習。
12	コーパスの調査発表	コーパスでことばについて調べたことを発表。	予習：発表準備。 復習：コーパスの使用練習。
13	期末研究プロジェクト	これまでのゼミ活動に基づき、期末グループ研究のテーマを決める。	予習：ゼミ活動の資料を読み「期末研究」について考えておく。 復習：テーマに沿った調査計画。
14	期末研究プロジェクト調査	調査（フィールドワーク）	予習：調査準備。 復習：結果分析。
15	期末研究プロジェクト発表 卒研に向けて	発表と、発表のピア評価。 先輩の卒研の事例を知り、自分のテーマを考え、春休みにつなげる。	予習：発表準備。 復習：卒研のテーマを考える。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
Building on the previous semester, this course aims to introduce students to primary research and data collection. Student will complete a simple research project that involves creating a simple questionnaire for the purposes of investigating a research topic. Ethical collection of data will be introduced. Following this, students will learn the steps necessary for reporting the results.							⑦ ⑪ ⑫
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	Students will be able to write a correctly formatted research paper Students will be able to write a short research paper based on a topic provided to them			Report Report		10% 30%	
情報収集、 分析力	Students will be able to collect and organize primary data in an ethical manner.			Assignments		30%	
	Students will improve their English reading ability via Xreading			Assignments		20%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about a research topic in a way that informs and engages their audience			In-class engagement		10%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 10% Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects) and read books on Xreading: 50% Report (Complete a short research paper which uses primary data to address a given topic) 40% * All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (https://niu.9learn.net/ and Google Classroom)							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書 : Materials provided by the teachers 参考書 : J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書 : Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are required to have a tablet or notebook computer connected to NIU WIFI. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> Introduce the course and review the syllabus 	Read syllabus in advance Xreading
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> <i>Rubric Hyoka</i>, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays 	Complete the rubric and input any books on Manaba. Xreading
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> Conference with seminar teacher about personal goals for the semester Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 book status 	Students meet with teacher about rubric. Xreading
4	Methods of data collection	<ul style="list-style-type: none"> Why collect data? How to collect data? 	Students make a questionnaire to collect data about a topic. Xreading
5	Research ethics	<ul style="list-style-type: none"> What are research ethics? How to conduct research ethically? Research ethics paperwork 	Revise questionnaire Xreading
6	Collecting data	<ul style="list-style-type: none"> Students collect data from each other and discuss preliminary results 	Summarize raw data into charts and graphs Xreading
7	Reporting data collection methods	<ul style="list-style-type: none"> Why report the data collection method? What should be reported? Useful expressions for reporting 	Write a simple report of the collection methodology Xreading
8	Analyzing data results	<ul style="list-style-type: none"> Present summary of data collection How to report such data 	Write a simple summary of data results Xreading
9	Discussing data results	<ul style="list-style-type: none"> Discussion about what the results mean and how it answers the research question 	Write a simple discussion of the results Xreading
10	Writing workshop	<ul style="list-style-type: none"> Putting everything together to answer the main research question Clarify students' questions about primary research 	Revise writing based on feedback. Xreading
11	Draft paper first half	<ul style="list-style-type: none"> Workshop on the first half of students' research paper 	Write the first half of the paper. Xreading
12	Draft paper second half	<ul style="list-style-type: none"> Workshop on the second half of students' research paper 	Improve first half. Write the second half of the paper. Xreading
13	Final paper formatting	<ul style="list-style-type: none"> Best practices for formatting academic papers Check 100 Book status 	Improve the second half. Adjust formatting. Xreading
14	Mini-presentation	<ul style="list-style-type: none"> Students present and discuss the topic of their papers 	Give presentation about topic and discuss. Xreading
15	Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> Students receive feedback on their final papers 	Receive feedback about paper. Make final changes. Xreading

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	浦郷 淳		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習のテーマは、「未来の学校」である。受講者が、自らもった問題意識を学校に引きつけて考えていく。受講者は、自らの問題意識から生まれた問いを基に、関連する情報を自ら収集し、整理・分析、表現（発表・レポートの作成）、情報の交換を行う。この過程において、学校との関連性も検討していく。このことで、受講者の、情報活用能力、論理的思考力、複眼的視点を持ち、自分で物事を考え的確に表現する力、これら卒業研究の作成に向けた力の養成を図りたい。最終的には、受講者自らが問いをもち、4年次の卒業研究に取り組めるように導きたい。</p>							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自らの「問い」の解決に必要な用語や事項を理解し、端的に説明することができる。				発表と議論 レポート	10 % 20 %	
情報収集、分析力	自らの「問い」の解決に必要な資料や情報を自ら収集、整理・分析を通して、指定された形式でレポートに表現することができる。自らの「問い」の解決を示すために必要なデータや論文などを的確に読み取ることができる。				発表と議論 レポート	10 % 40 %	
コミュニケーション力	自らの主張を根拠を基に行い、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	20 %	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価は、レポートを 60%、発表と議論を 40%の比率で評定する。なお、演習の無断欠席は減点の対象となる。 ○ 発表と議論は、①自らの主張を行うのに必要な情報を提示できているか、②使用する語句が正確な意味で用いられていたか、③自らの「問い」を解決する資料に対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか④発表・質疑・発言の内容が論理的なものになっていたかの 4 点を中心に評定する。 ○ レポートは、①様式や引用のルールが遵守されているか、②自らの問いと結論、結論に至る根拠が明確に示されているか、③資料を引用した論理的な文章による考察や自らの独自性があるか、の 3 点から評価する。なお、演習内で作成した（作成過程の）レポートについては、随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントを行う。 							
授業の概要							
<p>本授業は、受講者が各自の問いを基にテーマを設定し、テーマに関わる情報を収集し、整理・分析、表現（発表・レポートの作成）、議論を行う。その過程において、テーマと学校との関わりを検討していく。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、80 分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。参考書：井下 千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法』（慶應義塾大学出版会）2019 指定図書：小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）』2018</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。 2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。 3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。 4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予) シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別 面談を行う。	予) 本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、 各自が課題図書について作成したレジュメを用いて 発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、 各自が課題図書について作成したレジュメを用いて 発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
5	レポート作成方法の習得	レポートの構成、作成方法、調査手順を説明する。情報 収集(文献・インターネット等)の方法を説明する。	予) レポートの作成方法を 調べてくる 復) レポート作成方法の復 習
6	問いの設定①	自身の関心のある事柄について、関連した資料を基に 発表する。	予) レポートテーマの検討 と情報の収集 復) 議論の振り返り
7	問いの設定②	発表を基に、調べていきたい具体的な問いを抽出と解 決に必要な情報収集の見通しをもつ。	予) レポートの問いを考え る 復) 必要な情報の検討
8	基礎情報の検討・収集	集めてきた情報をもとに、問いに関わる基本的事項を 洗い出す。	予) 情報収集 復) 追加情報の検討
9	基礎情報の整理・分析	集めてきた情報を、整理・分析する。	予) 情報収集 復) 追加情報の検討
10	レポートを作成する①	レポートの構成を考え、必要な資料やデータを考え る。	予) 情報収集 復) レポート構成
11	発表・議論する①	整理できた段階までの発表を行う。	予) 発表準備 復) 問題点の確認
12	情報を再考・分析・考察する	問いに関わる資料やデータを再考し、レポートに反映 させる。	予) 必要資料の収集 復) 情報の検討
13	レポートを作成する②	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポートの改善
14	レポートを作成する③	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポートの改善
15	発表・議論する②	レポートを発表し、発表内容について議論する。 今後の日程等を確認する。	予) 発表準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB(CF302)			担当教員	江島 弘晃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p>専門演習 IIA および IIB では運動生理学や健康科学に関する専門的知識を習得することを目的とする。とくに、当該分野における研究背景および進展状況を把握することで卒業論文を作成する準備を進めていく。IIB では IIA と同様に運動生理学に関する専門的知識の習得を継続しつつ、関連研究の原著論文の収集および専門的な考察力を習得することに重視する。</p>							②③⑤⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・ 運動生理学や健康科学に関する専門的知識を獲得することができる。				・ 課題の遂行	30%	
情報収集、分析力	・ 運動生理学や健康科学に関する最新の情報を原著論文等を通して収集し、自身の考察力を育むことができる。				・ 情報収集	60%	
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べるができる。				・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>参考書を通して運動生理学に関する専門的な理解度を評価基準とする（評価比率:30%）。また、各自が設定した課題やテーマに関する先行研究や資料を選択し、それらを基にし、自身の考察を踏まえた適切な要約を作成すること（評価比率:60%）、数回の発表機会を通じたプレゼンテーション・ディスカッションを適切に表現出来ているか否かも評価する（評価比率:10%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>運動生理学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いた文書・表図作成またはスライド作成の技法を獲得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッションは参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」（ナッパ）ISBN：978-4-905168-59-1 指定図書：石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」（ナッパ）ISBN：978-4-905168-59-1</p>							
授 業 外 に お け る 学 修 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と							
<p>本演習を通してスポーツ科学・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できることを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することを目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 個別に学業などに関する面談を実施 	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する 	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・筋量と筋力の遺伝学) 	予習：骨格筋と遺伝に関する調査 第7章のレジюме作成 復習：筋量と筋力の遺伝学について復習
4	原著論文の紹介 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・筋量と筋力の遺伝学) 	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：筋量と筋力の遺伝学に関する先行研究の復習
5	輪読 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・分子スポーツ栄養学) 	予習：スポーツ栄養学における分子機序の知見の調査 第8章のレジюме作成 復習：分子スポーツ栄養学について復習
6	原著論文の紹介 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・分子スポーツ栄養学) 	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：分子スポーツ栄養学に関する先行研究の復習
7	輪読 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・糖尿病および運動) 	予習：糖尿病に関する調査 第9章のレジюме作成 復習：糖尿病の運動療法について復習
8	原著論文の紹介 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・糖尿病および運動) 	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：糖尿病の運動療法に関する先行研究の復習
9	輪読 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・分子と加齢および運動) 	予習：加齢性の運動適応・抵抗性の調査・第10章のレジюме作成 復習：加齢における運動適応について復習
10	原著論文の紹介 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・分子と加齢および運動) 	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：加齢における運動適応に関する先行研究の復習
11	輪読 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・分子神経科学と運動) 	予習：運動と神経の関連性の調査 第11章のレジюме作成 復習：神経科学と運動の関連性について復習
12	原著論文の紹介 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・分子神経科学と運動) 	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：神経科学と運動に関連する先行研究の復習
13	輪読 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・分子運動免疫学) 	予習：運動免疫学の調査 第12章のレジюме作成 復習：運動免疫学について復習
14	原著論文の紹介 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・分子運動免疫学) 	予習：原著論文の検索 テーマに基づくレジюме作成 復習：運動免疫学に関連する先行研究の復習
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期授業のまとめと休暇中の課題 	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF 302)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
情報収集、 分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	35%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	25%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の90%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国、カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス2世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル3世、サルゴン2、エサルハドン、アッシュールバニバルについて調べる
11	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（9） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅡAに引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。</p>							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関することがらを人文科学的に考察できる。体育やスポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。				・専門分野研究の要約内容 ・指導立案や指導実践	15% 15%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				・資料収集 ・専門分野に関する問題設定	30% 20%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・他者の主張を踏まえた議論の展開	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）が作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。 運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。 フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> 教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。 本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 菅野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に 本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「論文」という伝え方ⅡB	「問い」から「答え」にたどり着くまでの道筋	予習：『新版 論文の教室』を通読 復習：図書の「はじめに」と「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅡB	主張の抽出と思考の言語化ⅡB (テーマ：自身の研究概要の作成)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅡB	授業/指導計画と種目の教材化ⅡB (体育とスポーツ指導の差異を踏まえた計画立案)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：スポーツと教育は結びつくか)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：出来る子と出来ない子が一緒に体育の授業を受ける場面でどう指導するか)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：なぜスポーツの現場から非科学的指導法がなくなるのか)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：パフォーマンス向上のための取り組み)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：競技成績の向上は人類進化の結果か、環境や道具が変化した結果か、幼児体育の最前線)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (テーマ：科学的知識を反映したウォームアップ)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本 semester 授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB(CF302)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことばという、形のないものに値段がついているという観点から日本語を考える。「ことばの社会言語学的価値」について考え、日本語をはじめとした様々な言語にいかに関差が存在しているかを学ぶ。							③④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会言語学的価値について理解する。				発表 レポート	15% 20%	
情報収集、分析力	インターネットや図書を活用して生データを収集・整理・分析することができる。				発表	40%	
コミュニケーション力	調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べるができる。				発表 ディスカッション	10% 15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
社会言語学的価値に関する専門知識について、普段の発表やレポートを30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて40%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて30%で評価する。発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。							
授業の概要							
授業内では、資料を輪読し、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、自分で情報を収集し整理したりする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：井上史雄（2000）『日本語の値段』大修館書店 参考書：特になし 指定図書：田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代——ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
普段から語彙を増やすように積極的に努めること。 日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験（JLPT）」を各自受験すること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の進め方, 評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習) ルーブリック評価と読書記録の入力 復習) ルーブリック評価
3	III 日本語のさまざま	(1) 歌の外国語	予習) I-1 を読む 復習) 他言語について調べる
4	III 日本語のさまざま	(2) 方言ラップの社会言語学	予習) I-2 を読む 復習) 他言語について調べる
5	III 日本語のさまざま	(3) 価値の高い方言/低い方言	予習) I-3 を読む 復習) 他言語について調べる
6	III 日本語のさまざま	(4) 新方言の誕生	予習) I-4 を読む 復習) 発表準備
7	III 日本語のさまざま	発表	予習) 発表準備 復習) 他者の発表の感想を書く
8	III 日本語のさまざま	発表	予習) 発表準備 復習) I 章のまとめを書く
9	卒研の準備	論文の構成、剽窃	予習) 配布資料を読む 復習) 課題を提出する
10	卒研の準備	データ収集	予習) 自分で調べる 復習) 自分で調べる
11	卒研の準備	データ収集	予習) 自分で調べる 復習) 自分で調べる
12	卒研の準備	データ収集	予習) 自分で調べる 復習) 自分で調べる
13	卒研の準備	経過報告	予習) 発表準備 復習) 他者の発表の感想を書く
14	卒研の準備	経過報告	予習) 発表準備 復習) 他者の発表の感想を書く
15	まとめ	後期のまとめ	予習) 他者の経過報告を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	川上 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本演習では、学校心理学を大きな柱として授業を展開する。基本的には、子どもに関わって、「学習」を促進したり、「心の問題」を解決したりするための学問とされ、生徒指導・教育相談、キャリア教育（進路指導）も包括する領域とも言える。指導・支援の土台となる一人一人の子どもの発達を、子どもたちの状態や状況から正しく把握することを目指し、その適切な支援・指導のありかたについて検討することが最も重要である。まずは、アセスメントに重きを置き、子どもの実態把握のための基本的な視点について習得することをねらいとする。</p>							①④⑤ ⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・子どもの実態を把握するために必要な専門的知識について理解し、簡単に説明することができる				発表・議論 レポート・プレゼン資料	10% 20%	
情報収集、分析力	・自分のもつ問題意識の根拠となる、新聞やニュース、文献、書籍などから事例や情報、理論を収集することができる。 ・多面的に物事を整理し、自分自身がどう考え捉えているのかを意識して、プレゼン資料やレポートを作成することができる。				レポート・プレゼン資料	35%	
コミュニケーション力	・他者の意見（ものの見方）に関心・理解を示しつつ、自分自身がどう考え捉えているのかを伝えることができる。				発表・議論 授業の振り返り	20% 5%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	・自身の課題への取組と他者の意見を通して、色々なものの見方、感じ方があることを理解することができる。				発表・議論 授業の振り返り	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価については、レポート・プレゼン資料の様式や内容を55%、発表・議論、授業の振り返り（授業後記述）を45%の比率で評価する。レポート・プレゼン資料は、文献等の引用ルールの順守等の基本的なアカデミックスキルと根拠を踏まえた論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レポート・プレゼン資料の作成に関しては、演習の初回で説明し、作成に関する修正点や質問等は随時対応する。発表・議論、授業の振り返りについては、専門的な視点への意識の有無やテーマに対する考えの深まりについて、発言の内容や議論への参加などを基準に評価する。なお、前回の授業の振り返りについては次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>この演習では、学校心理学を大きな柱とし授業を展開する。各自テーマを決め、様々な問題を抱える子どもたちの実態把握を客観的な根拠を踏まえたうえで丁寧に行い、その具体的な指導・支援（協力体制）の在り方について具体的に検討を行う。なぜ、そのテーマを設定したのかについての動機についても、丁寧におさえない。互いの発表を通して、多様な問題があること、それに対するものの見方も様々であることを改めて再確認するとともに、改めて、自分が追究したいテーマについての最終整理を行いたい。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。 指定図書：思春期・青年期のころ—かかわりの中での発達（平石賢二編著、北樹出版）、生徒指導提要（文部科学省） ※留学生には別途、授業中に指示する</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

1. 他者の発表内容（テーマ）への理解を深めるために事前に資料に目を通したり、関連資料を収集したりすること
2. 発表の有無に関係なく、毎時間自分の意見を必ず発表することで、自分の考えを整理するよう努めること。
3. 自分の考えの根拠となる客観的資料（論文、著書など）の収集を普段から意識すること
4. 自分にとっての切実な心理的、教育的課題についての問題意識を整理すること。
5. グループワークの際は、互いに意見を出しやすい雰囲気づくりを意識すること。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	メンバー自己紹介 授業の概要およびゼミの運営方法を確認する。	予習：事前にシラバス及び演習概略を確認する
2	前学期の省察と本学期的目標設定	個別面談による目標設定をおこなう。	予習：自身のこれまでの取組や興味・関心について整理してくる。
3	テーマ設定①	最近気になる子どもの抱える問題についてニュースや新聞等からピックアップし、その概要と背景について自分の考察を発表する	予習：テーマ設定に関する資料収集
4	テーマ設定②	本演習で追究したい具体的なテーマと研究の目的を決定する	復習：テーマに関する情報収集
5	レポート・発表資料の作成方法について	レポート・発表資料の作成について (根拠となる客観的資料の収集について)	復習：資料収集、発表準備
6	基礎知識の習得①	研究の目的に関わる理論や知識を収集し、整理する	予習：事前に論文に目を通し、質問事項について整理
7	基礎知識の取得②	研究の目的に関わる理論や知識を収集し整理する。	予習：事前に論文に目を通し、質問事項について整理
8	発表資料を作成	これまでの資料を整理し、発表資料を作成する	予習：発表資料の作成 復習：発表準備
9	研究発表①	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
10	研究発表②	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
11	研究発表③	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
12	研究発表④	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
13	レポートの構想	自分の発表から得た新たな視点や課題を踏まえ、自分のテーマについて再検討。必要に応じて個別対応	予習：自身のテーマについての整理
14	レポートの作成	テーマ，研究の目的に沿ったレポート作成	予習：学びの想起 復習：レポートの仕上げ
15	成果の発表	テーマに関する発表	予習：発表練習 復習：レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB(CF302)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>専門演習 IIA および IIB では、社会科学分野においてはスポーツマネジメントや地域スポーツ、自然科学分野においては運動生理学や測定評価・コンディショニングに関する専門的知識を習得することを目的とする。特に、各自の専門競技種目や興味関心の高い分野における研究の現状を把握し、卒業論文を作成する準備を進めていく。IIB では地域スポーツや想定評価・コンディショニングに関するテキストや論文の輪読を行うこと、また関連情報の収集や分析、実習に主眼を置く。</p>							②③⑤⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツや測定評価・コンディショニングに関する専門的知識を獲得することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 課題の取り組み 	30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツや測定評価・コンディショニングに関する情報を、書籍や論文等を通して収集し、自身の考察力を向上することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の内容 	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べるができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問や意見を踏まえての議論 	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>地域スポーツや測定評価・コンディショニングに関する理解度を、課題の取り組みや実習により評価する（評価比率:30%）。また、各自の専門種目や、関心のあるテーマに関するデータ・先行研究などの資料を基に、その趣旨を考察し、適切に要約し、情報収集を行っているかを評価する（評価比率:50%）。さらに、担当の授業時間で実施するプレゼンテーションやディスカッションの内容を評価する（評価比率:20%）。授業課題の提出やフィードバックはポートフォリオを通して行う。</p>							
授業の概要							
<p>地域スポーツや測定評価・コンディショニングに関するテキストや論文を輪読する。輪読に伴い、PC やタブレット等を用いた文書やスライドの作成技術を実践的に修得する。担当者は予習として事前に資料を作成し、授業ではプレゼンテーション形式による発表と、参加者全員によるディスカッションを行う。また、理論的な内容を実習によって実践的なものにしていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：「スポーツ地域マネジメント」原田宗彦 2020（学芸出版社） 指定図書：「ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価—その有意義な活用を旨として」アメリカスポーツ医学会 2010（市村出版）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習を通してスポーツを客観的に評価するための測定法や、スポーツを支えるためのコンディショニング、そして地域におけるスポーツについて学び、自身の専門種目の競技力向上や、将来のスポーツに関わる仕事に反映してほしい。また、本演習で行うカンファレンスや実習によって、コミュニケーション能力や課題の取り組みなど、社会人の基礎となる能力の向上を目指してほしい。そのために、挨拶や授業態度、時間厳守などの基本的な社会行動を守り、授業を欠席する際には事前に連絡するなどの習慣をつけてほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本演習の進め方についての説明 個別の面談実施 	予習：シラバスを熟読する
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 前期の省察 後期の目標設定 	予習：前期の省察について考えてくる 復習：後期の目標確認
3	輪読準備	<ul style="list-style-type: none"> 参考書・テキストなどの紹介 輪読方法の紹介 	予習：専門種目の測定評価コンディショニングについてのテキストを読む 復習：輪読方法の確認
4	研究発表の聴講	<ul style="list-style-type: none"> 教員による輪読・発表を聴き、質問をする 発表担当者の決定 	予習：PCの準備 復習：輪読内容の確認
5	輪読 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表 (測定評価分野 1) 	予習：テキストを読む 復習：測定評価と専門種目について考える
6	輪読 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表 (測定評価分野 2) 	予習：テキストを読む 復習：測定評価と専門種目について考える
7	実習	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ測定評価の技術に基づく体力の測定と評価 	予習：測定法の確認 復習：測定したデータの入力や評価のために処理
8	輪読 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表 (コンディショニング分野 1) 	予習：テキストを読む 復習：コンディショニングと専門種目について考える
9	輪読 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表 (コンディショニング分野 2) 	予習：テキストを読む 復習：コンディショニングと専門種目についてまとめる
10	実習	<ul style="list-style-type: none"> 学んだコンディショニング理論に基づく専門種目に応じたコンディショニング実習 	予習：コンディショニングの理論について確認 復習：実施したコンディショニングを専門種目に取り入れる
11	輪読 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表 (地域スポーツ分野 1) 	予習：テキストを読む 復習：地域スポーツと専門種目について考える
12	輪読 (6)	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表 (地域スポーツ分野 2) 	予習：テキストを読む 復習：専門種目と地域スポーツについてまとめる
13	実習	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なまちづくりを踏まえた地域スポーツイベントの企画を立案 	予習：興味のある地域スポーツイベントを調べる 復習：立案した企画を精査する
14	実習	<ul style="list-style-type: none"> 企画したイベントの発表 	予習：立案した企画を完成させる 復習：受けた質問や意見をもとに内容を修正する
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> 後期授業のまとめ 今後への課題検討 	予習：後期の授業を振り返る 復習：今後の課題などを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習は、IA/Bで習得した人類学的理論をベースとした応用編となります。質的調査を中心としたリサーチ方法論の基本的な概念と具体的な手法を学んでいきます。とりわけ、人類学によって立つ方法論でもあるフィールドワークを深く学び、文献などの二次的資料からではつかめない生の現実をより客観的、科学的に捉え、多方面からの対象の理解によって、人間のより本質的な側面に内側からの接近を試みます。ここではフィールドワークを「生きる方法を見つけるという共通任務に他者とともに加わること」に関するものと捉えます。							②④⑥⑦ ⑧⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	社会科学の理論的構築とフィールドワークに基づいた質的調査が展開できる					・フィールドワーク ・文献収集	30%
情報収集、分析力	フィールドワークの文化人類学的理解ができ、実際に具体的な地域と課題を設定した情報収集のためのリサーチデザインが描ける。プライマリーデータの重要性を理解し、効果的に研究するにあたってのプランニングができる。					・レポート ・討議参画 ・意見の陳述	40%
コミュニケーション力	参与観察や非構造的インタビューを理解し、実際に応用ができる。ラポールの定義ができ、具体的に構築するための方策をイメージできる。コミュニケーションを積極的に取り協力しながら、独自の意見や考えを共有し課題を解決できる。					・意見の陳述 グループワーク	20%
協働・課題解決力	PBL やプレゼンを通して共通課題に取り組み、深い問題意識をもって自己表現能力を高めることができる。困難にぶつかっても仲間と協力し合い助け合いながら、グループワークや問題解決に挑める。					・意見の陳述 ・グループワーク	10%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>グーグルクラスを基盤として授業を進行します。初めての人には初日に分かりやすく説明します。すべての提出物や、授業で使用するマテリアルはこのICTをプラットフォームとし、添削などのフィードバックを機能的にします。15週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におきますので、筆記試験は行いません。プレゼンテーションも評価対象になりますが、本番の発表だけでなく、それに至る過程、取り組み姿勢、事前準備、特にフィールドワークやグループワークなど実践を通じた学びをより重視します。故に、目に見える授業姿勢だけではなく、オフクラスの取り組みがレポートとして反映される提出物を重視します。中でも、リアクションペーパーによって授業を作っていくので特に重きを置きます。基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点からも、提出物を評価します。参加型の演習なので無断欠席は仲間の学習に支障となり、減点対象にします。</p>							
授業の概要							
<p>この授業はPBLであり、卒論に向けて取り組もうとする課題をプロジェクトとして、文化人類学的理解と手法でアプローチします。構成としては反転授業となります。つまり、授業前半で得たインプットを後半のグループワークでアウトプットし、オフクラスでは授業全体で得たインプットを、次の授業に生かすために復習し、グループワークやディスカッションをより豊かなものにする予習にも活用します。また、プロジェクトの発表として中間と最終日にフィールドワークや授業のインプットを反映したプレゼンテーションをグループで行います。個々の内容に関連したビジュアルエイドや動画などを積極的に取り入れていれながら、楽しく共に学んでいきたいと思えます。また、ESP (English for Specific Purpose) でもあるので観光を通して英語が学べるよう、共通言語を英語とします。アクティブに参加できるようにフレーズや単語など表現を前もって予習して臨んでください。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とします。</p>							

教科書・参考書

教科書：『フィールドワークの学び方』佐藤慎司 ナカニシヤ出版 2022年

参考書：『旅と観光の人類学』橋本和也 著 新曜社 2022年

指定図書：『観光人類学のフィールドワーク』：市野澤 潤平 編 ミネルヴァ書房 2021年

授業外における学修及び学生に期待すること

卒論に向けたリサーチ方法論の基本を習得することは基より、観光の現場においても論文という形で自らの知見を発信することは、ともすれば机上の空論に陥りがちなアカデミクスに風穴を開け、フィールドからの声なき声を形にし、理論と実践を統合する重要な橋渡しの役目も担います。科学的で説得力を持った学術的研究を実現するためには、その共通基盤となる学術的調査手法、手順を習得することが、より風通しの良いコミュニケーションの実現につながります。次世代の観光を担うプロジェクトリサーチャーとしての素養を、多様な形態のフィールドワークの方法論に触れ、実践し、会得して、より広い世界にアクセスする契機を観光の場で創造していきましょう。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 全体の導入	メンバー自己紹介 演習概略および方向性やゼミの運営方法を確認する	事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる
3	個人面談・省察	専門演習Ⅰでの成果を振り返り、到達目標の進捗状況や各自の問題意識の持ち方等を確認し、新たな目標設定を行う	本学期に向け新たな目標案を検討しておく
4	社会科学の調査法入門	量的・質的調査法を概観し、その意義と手法を学ぶ	教科書を参考に基本的な用語は調べておく
5	質的調査のパラダイム	キーコンセプトとパラダイムシフトについて学ぶ	教科書を読みこみ、基本概念は押さえておく
6	質的調査の方法論	観察・質問に関する基本的な概念と手法を学ぶ	質問と観察について調べておく
7	フィールドワークとは（１）	ラポール、無知の知について学ぶ	参考資料を読み、基本概念を押さえておく
8	フィールドワークとは（２）	参与観察法・非構造的インタビューについて学ぶ	教科書を読みこみ、基本概念は押さえておく
9	フィールドワークとは（３）	データ収集とその分析について学ぶ	教科書を読みこみ、基本概念は押さえておく
10	中間発表	これまで学んだ方法論を自らの課題に応用し、グループでプレゼンテーションする	これまでのインプットを振り返り、発表の準備をする
11	課題設定と実践（１）	プレゼンした課題を掘り下げ、先行研究を調べ、最適な手法を選ぶ	教科書や資料を参考にまとめの発表の準備をする
12	課題設定と実践（２）	実際に収集したデータをグループで共有する	フィールドワークを行い情報収集しておく
13	課題設定と実践（３）	実際に収集したデータをグループで共有する	フィールドワークを行い情報収集しておく
14	ⅡA 全体の振り返り	演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につながるのかを考える	学んだことを再確認し、具体的な形にする
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う	半期のまとめ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	余 乾生		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます重要性が増してきた社会保障をめぐって、その具体的なトラブルにフォーカスする。まず理解を深めるために、労災、雇用という個々の社会保障の分野の仕組みを把握する。これを前提に、具体的なトラブル（判例）を取り上げながら、正義や価値観という法的な角度から、議論を展開する。判例の紹介に際して、模擬裁判を通じて、予習、グループワーク、ディベート、自分自身の課題提起およびその解決を求める。							①④⑤⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会保障判例をめぐり基礎知識を理解することができる。				演習への参加度	20%	
情報収集、分析力	模擬裁判を通じて、資料を作成し、わかりやすく発表することで、判例をめぐり必要情報の調べ方や判例の分析や議論がある程度できる。				最終レポートとディベート	50%	
コミュニケーション力	他の方の意見を正確に把握し、論理的に回答やディベートができる。				ディベート	10%	
協働・課題解決力	グループで事前の打ち合わせやディスカッションにより、課題解決に繋ぐことができる。				演習への参加度	10%	
多様性理解力	授業中のディベートを通じて、同じものに対して、異なる意見や理解が可能ということを認識できる。				演習への参加度	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・最終レポートとディベート：参考資料の適切さ、レポートとディベートのわかりやすさと論理性について評価する。 ・演習への参加度：グループワークやディベートへの参加度合を評価する。 ・フィードバックは授業中に適宜行う。 							
授 業 の 概 要							
<p>ますます重要性が増してきた社会保障について、専門演習Ⅰでは、政策論の視点から検討した。しかし、具体的なトラブルの解決方法については、まだイメージができていない。本演習では、前期後期を通じて、社会保障における年金、介護、労災と雇用の4分野について、具体的なトラブルとその解決の法的ロジックについて検討する。それぞれの分野の制度の仕組みを授業中把握した上で、模擬裁判を通じて、論理的な思考を訓練する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p> <p>指定図書：『社会保障判例百選 第5版』、岩村正彦編、有斐閣</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・判例、とりわけ、社会保障の判例は普段接触の機会が少ない。しかし、社会保障は私たちの私生活に相当の影響を及ぼしている。決して無関係ではない。こうした難しそうで、重要なものに、挑戦してみよう。 ・模擬裁判や判例分析について、少し法学入門レベルの知識があれば、やりやすくなる。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	模擬裁判や判例についての再確認。ゼミ担当教員と相談しながら、グループ分けを確定する。	予習：シラバスを読む 復習：模擬裁判や判例の再確認
2	社会保障の法や判例の読み方の再確認	前期の基本的な部分を再確認する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
3	労災の仕組み	各論的に、労災の仕組みおよびその問題点を確認する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
4	労災に関する判例 ①	労災に関する判例を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、判例の構造を確認する。「事実概要」をまとめる。	予習：労災の判例の全体像 復習：事実のまとめ
5	労災に関する判例 ②	労災に関する判例の「争点」と「判旨」を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、「争点」と「判旨」をまとめる。	予習：判例の争点と判旨 復習：争点と判旨のまとめ
6	労災に関する判例 ③	模擬裁判のための作戦会議。	予習：判例の論理 復習：作戦会議の内容
7	労災に関する判例 ④	模擬裁判本番Ⅰおよびフィードバック。	予習：模擬裁判の資料作成 復習：改善点
8	労災に関する判例 ⑤	模擬裁判本番Ⅱおよびフィードバック。	予習：模擬裁判の資料作成 復習：改善点
9	雇用の仕組み	各論的に、雇用の仕組みおよびその問題点を確認する。	予習：授業レジュメを読む 復習：確認問題を解く
10	雇用に関する判例 ①	雇用に関する判例を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、判例の構造を確認する。「事実概要」をまとめる。	予習：雇用の判例の全体像 復習：事実のまとめ
11	雇用に関する判例 ②	雇用に関する判例の「争点」と「判旨」を授業中一緒に確認する。グループワークを通じて、「争点」と「判旨」をまとめる。	予習：判例の争点と判旨 復習：争点と判旨のまとめ
12	雇用に関する判例 ③	模擬裁判のための作戦会議。	予習：判例の論理 復習：作戦会議の内容
13	雇用に関する判例 ④	模擬裁判本番Ⅰおよびフィードバック。	予習：模擬裁判の資料作成 復習：改善点
14	雇用に関する判例 ⑤	模擬裁判本番Ⅱおよびフィードバック。	予習：模擬裁判の資料作成 復習：改善点
15	まとめと展望	まとめと最終レポートの説明	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	長津恒輝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA およびⅡB では、スポーツ健康科学分野における学術的な論文を読み解き理解する能力と科学的な実験を実施する能力の向上をねらいとする。ⅡB では、ゼミ生全員で1つの実験に取り組み、測定手法の習得、および得られたデータの分析やそこから考察する能力の獲得を目標とする。							③④
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	・スポーツ健康科学分野に関する実験手順や測定機器の扱い方を学び、円滑に実験を進めることができる					・実験	20%
情報収集、分析力	・得られたデータを分析し、比較検証ができる					・図表の作成	20%
コミュニケーション力	・実験から得られた結果に対し、科学的な根拠を持った考察を述べ、他者と意見を交わすことができる					・ディスカッション内容	30%
協働・課題解決力	・ゼミ生と協力して実験に取り組みことができる					・実験	30%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
実験に取り掛かる際に計画から分析まで主体的に取り組んでいるか、研究はチームで実施することで円滑に進むということに気づけているかを評価する(30%)。測定機器に関して、丁寧な扱いができていないか、事前に何度も触れているかを評価する(20%)。データの分析は統計学に基づいた比較ができていないかを評価する(20%)。また、ディスカッション時に他者の意見に対し科学的な根拠を踏まえた上で批判的に捉えることができていないか(30%)を評価する。フィードバックはポートフォリオを用いて行う。							
授業の概要							
ゼミ生全員でスポーツ健康科学分野に関する1つの実験を半期かけて行う。研究意義、実験計画、測定、分析、考察と順を追って正しく実施することで卒業研究に向けた研究の基礎を固める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」福永哲夫，山本正嘉，市村出版 指定図書：「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」福永哲夫，山本正嘉，市村出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1つの実験を通して、スポーツ健康科学分野における研究方法の習得を望む。また、ゼミメンバーとの共同での実験に取り組む中で、自身の役割を考え主体的に行動することを期待する。団体行動であるがゆえにルールが生じ、忘れ物、遅刻、欠席等は担当教員をはじめゼミ生に必ず共有する。考察を深めるためには先行研究を読む必要があり、ディスカッションに入る前に個人で文献交渉を行う。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇中の活動報告 ・前学期の省察と本学期の目標設定 ・本演習の進め方についての説明 	予習：活動方向用のスライド作成 復習：ゼミ内容の全般的な確認
2	実験計画①	<ul style="list-style-type: none"> ・実施する実験テーマの思索と決定 ・仮説を立てる 	予習：探究したいトピックを考えておく 復習：他の仮説が立てられないか吟味する
3	実験計画②	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の決定 ・測定項目の吟味 	予習：対象者として適している者の条件を考える 復習：決定した測定項目の意味を理解する
4	実験計画③	<ul style="list-style-type: none"> ・測定機器の動作確認 ・予備実験の確認 	予習：測定機器の名前と場所を確認する 復習：測定機器を使用してみる
5	実験計画④	<ul style="list-style-type: none"> ・予備実験 	予習：予備実験の準備をする 復習：予備実験の内容を評価する
6	実験計画⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・計画および方法の修正 	予習：予備実験の改善点を発表できるようにする 復習：実験準備
7	実験①	<ul style="list-style-type: none"> ・験者（被験者）となり実験を実施する 	予習：測定の流れを確認する 復習：実験手順について振り返り、改善点を挙げる
8	実験②	<ul style="list-style-type: none"> ・験者（被験者）となり実験を実施する 	予習：測定の流れを確認する 復習：実験手順について振り返り、改善点を挙げる
9	実験③	<ul style="list-style-type: none"> ・験者（被験者）となり実験を実施する 	予習：測定の流れを確認する 復習：実験手順について振り返り、改善点を挙げる
10	データ分析①	<ul style="list-style-type: none"> ・生データの触り方 	予習：データを取得する 復習：データをまとめる
11	データ分析②	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの作成 	予習：使用するグラフの種類を検討する 復習：見やすいグラフを作成する
12	データ分析③	<ul style="list-style-type: none"> ・統計について 	予習：関連先行研究に使用する統計方法を検討する 復習：統計的な差を可視化し、比較する
13	結果と考察①	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの見方、考え方 ・仮説の検証 	予習：グラフから読み取れることを考える 復習：検証結果の要因を読み解く
14	結果と考察②	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研との比較 ・考察を深める 	予習：関連する先行研究をまとめておく 復習：実験全体を振り返り、卒論に活かす
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習の振り返り ・夏季休暇中の課題の提示 	予習：振り返りを個人で事前に行い、発表できるようにする 復習：課題に取り組む

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	小泉 優莉菜		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
テーマ：博物館・地域文化資源の博物館学的研究 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業研究のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会で積極的に発表ができる。				プレゼンテーション 勉強会での発表	5% 5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、その他10%で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・博物館の調査日程・調査方法などを検討する。 ・現地調査を1日以上実施する。 ・研究発表会を行う。 ・研究成果レポートの作成と提出。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼儀が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※現地調査の旅費は実費とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：見学館の予備調査
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	博物館見学会	博物館の見学を実施する。	予習：見学館の準備 復習：見学の反省
4	卒業研究の制作	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の制作	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の制作	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の制作	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の制作	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の制作	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の制作	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の制作	卒業研究の第2章を纏める。	予習：第2章の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の制作の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の制作の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の制作の添削指導	添削された卒業研究を修正する。	予習：卒業研究の修正 復習：卒業研究の修正
15	後期課題の受理	後期のまとめとして、修正した卒業研究を提出する。	予習：卒業研究提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB (CF302)			担当教員	張 美慶		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本授業では未来成長産業として注目される医療観光について学ぶ。医療観光が持つ意味も、医療と観光が結合した Medical Tourism、包括的な健康サービスを消費する Wellness Tourism へと領域に拡大する傾向にある。医療観光を推進している国の事例を踏まえ、日本医療観光の可能性、方向性、長崎に適用できるウェルネス観光について考察する。							②③④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	ニューツーリズムの一つである医療観光市場について説明できる。					レポート	25 %
情報収集、分析力	PCを活用することで、多様な情報を収集することができる。					資料調査	40 %
コミュニケーション力	発表を通じて自分の考えを伝えて質問することができる。					チーム発表	20 %
協働・課題解決力	医療観光の市場規模と医療観光先進国の動向を把握し長崎ウェルネス観光の可能性を探る。					チーム内で議論する	15 %
多様性理解力							%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
医療観光市場の専門力についてレポートで評価する(評価比率25%)。情報収集、分析力を確認するため明確な資料調査で評価する(評価比率40%)。また、コミュニケーション力はチーム発表で(評価比率20%)、協力課題解決力はチーム内で取り組む議論で評価する(評価比率15%)。レポート、チーム発表のフィードバックは授業中に適宜行う。							
授業の概要							
医療観光の類型は大きく重症患者、整形手術、健康検診予防に分けられる。医療観光の概念と形成要因、各国の特徴を学び、今後日本の医療観光のあり方について考える。特に長崎ウェルネス観光ブランドまちづくりについて深く議論する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：真野俊樹『アジアの医療提供体制-日本はアジアの医療とどう向き合えばいいのか-』日本医学出版 指定図書：参考書と同じ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
観光分野でも医療観光は学生にとってまだ馴染みのない分野かもしれない。国際化が進んでいる医療観光において、治療目的の医療観光よりも健康的な生活を維持するための予防健康目的のウェルネス観光に焦点を置き、長崎地域のコンセプトに合ったウェルネス観光ブランドづくりのための創造力と新しいことを受け入れることで自分の意思決定、思考、判断力を身につけて欲しい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ガイダンス	授業運営方法を説明、自己紹介後チームメンバーを構成する。	予習:シラバスを事前に確認すること
2	省察、個人目標設定	前学期の学修成果を省察し、今学期の個人目標設定のための面談を実施する。	面談の準備
3	医療観光について	医療観光の概念、形成要因と形態について学ぶ。	予:医療観光の概念についてネットで検索してみる 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
4	医療観光コミュニケーション	医療観光コミュニケーションの重要性について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
5	医療観光効果	医療観光の否定的、肯定的な効果について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
6	海外医療観光市場	国際患者の移動状況とアジア及び海外医療観光国について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
7	韓国医療観光	韓国医療観光の現状と特徴、問題などについて学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
8	医療観光マーケティング戦略	マーケティングミックス、病院の医療観光客誘致戦略について学ぶ。	予習:インターネットを活用して事前に調べておくこと
9	医療観光広報マーケティング	医療観光マーケティングの必要性と戦略について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
10	アジアと日本の医療	アジアと日本の医療をめぐる情勢について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
11	医療の輸出の現状と課題	医療を輸出するという動きの背景、日本が考えるべきことについて学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
12	ウェルネス観光	ウェルネス観光の事例について学ぶ。	予:前回配布した資料を読んでおくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
13	ウェルネス観光とまちづくり	地域を健康にするウェルネス観光の方向性について学ぶ。 まちづくり	予:ネットでウェルネス観光の方向性について調べておくこと 復:授業中に取り込んだ内容を整理する
14	ウェルネス観光と長崎①	長崎地域の環境に合ったウェルネス観光について議論後、長崎ウェルネス観光ブランド戦略についてチームごとに発表。	復習:チーム別に議論した内容についてもう一度整理する
15	ウェルネス観光と長崎②まとめ	長崎地域の環境に合ったウェルネス観光について議論後、長崎ウェルネス観光ブランド戦略についてチームごとに発表。	復習:チーム別に議論した内容についてもう一度整理する。